

アグレプト[®]水和剤

ストレプトマイシン硫酸塩…………… 25.0%
 (ストレプトマイシンとして…………… 20.0%)
 湿展剤等…………… 75.0%

農林水産省登録 第 5655 号

毒性 普通物 有効年限 5年 包装 100g × 100袋、500g × 20袋、1kg × 10袋

●特長

ストレプトマイシン剤で野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

●適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
りんご	枝枯細菌病	2,000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし			収穫75日前まで			
もも	せん孔細菌病	1,000～2,000倍	収穫60日前まで	2回以内		2回以内
すもも	黒斑病 かいはよう病	1,000倍	収穫30日前まで			
うめ	かいはよう病		1,000～2,000倍	収穫90日前まで		4回以内
キウイフルーツ		花腐細菌病				
さるなし	黒腐病	2,000倍	2回以内	2回以内		2回以内
キャベツ	軟腐病	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内		3回以内
はくさい	腐敗病	2,000倍	2回以内	2回以内		2回以内
レタス		1,000～2,000倍		6回以内		6回以内 (種いもへの 処理は 1回以内)
こんにゃく	腐敗病	1,000～2,000倍	収穫30日前まで	6回以内	6回以内 (種いもへの 処理は 1回以内)	

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
たまねぎ	軟腐病	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
ばれいしょ	疫病	1,000~1,500倍				5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
	軟腐病	1,000倍	植付前	1回	5~10秒間 種いも浸漬	2回以内
そうか病 黒あし病	60~100倍					
たばこ	立枯病	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布又は株元灌注	2回以内

(平成26年12月31日現在の登録内容)

●効果・薬害等の注意

- 石灰硫黄合剤との混用はさけ、また、ボルドー液を混用する場合は使用直前に混合する。
- 薬害としてクロロシス(黄化現象)を生じることがある。特に高温多湿時には留意の上散布する。
- 過度の連用をさけ、作用性の異なる薬剤と輪番使用する。
- ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意する。
 - ①萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理する。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意する。
 - ②浸漬処理が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害が生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守する。
 - ③薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくとう芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させる。
 - ④種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行う。
 - ⑤薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しない。
- はくさいにおいては、高温時又は幼苗期には薬害の影響が大きいので、この時期の使用はさける。
- キウイフルーツの花腐細菌病に使用する場合は、出蕾後～開花期までが散布適期である。
- レタス及びキャベツに対しては、薬害を生じやすいので、高温条件下

での連続散布はさける。

- なし及びりんごに対しては、重複散布や多量散布は薬害を生じる場合があるので、所定濃度を厳守する。
- 有効年月内に使用する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。